

与板の刃物世界へ紹介

国際ギフトショー初出品

5日から東京

職人らでつくる「匠会」

長岡市与板地域の鍛冶職人らでつくる「越後与板打刃物匠会」が9月5日から3日間、東京都で開かれる国際ギフトショーに初出展する。国の伝統的工芸品に指定されている与板打刃物を海外にも販路開拓することを狙う。匠会の久住誠一会長(76)は「受注を増やす足掛かりにしたい」と意気込んでいる。



国際ギフトショーは春と秋の年2回開かれていて、今回は生活用品や観光物産品関連などの約2400社が出展、国内外から約20万人のバイヤーの来場が見込まれている。匠会によると、経済情勢の悪化、建築スタイル

の変化により大工道具の需要が落ち込み、最盛期には約300人いた職人が30人ほどに減った。国内需要が頭打ちになっているため海外を含め新たな販路を開拓しようとして、今回出展することを決めた。

匠会に加盟する各職人がかんやのみ、包丁、彫刻刀などを出品する。ケースに桜や竜の詩絵を施した護身刀などを出品する。「河清刃物工業」の川野潔さん(69)は「実用品としてだけでなく、飾りとしても売り出していきたい。新しいお得意さまが増えてくれればいい」と期待する。

国際ギフトショーへ初出品される国の伝統的工芸品の与板打刃物。長岡市与板町本与板の「河清刃物工業」

「と期待する。久住会長は「与板の職人の技術は日本一だと思っている。さまざまな業種の人にPRして新しい商品の提案につながれば」と話している。